

住宅履歴保管

きた住まいる サポートシステム

住宅を良好な資産として長期的に維持管理していくために、設計や施工など家づくりに関する住宅履歴情報を保管し、その情報は将来のリフォームや住み替えをするときに活用することができます。

例えば…

手狭になったから
2階を増築したいけど
耐震性が不安

将来、住宅を売る時に
性能の良さを
アピールしたい

こんな時に**住宅履歴情報**が役に立ちます。



センター
マスコットキャラクター
ハウリー

北海道建築指導センターは**北海道**から**保管機関の指定**を受け、**住まいの維持管理**や**リフォーム**を**履歴情報の長期保管**で支援します。

保管手数料 (令和7年4月現在)

(消費税10%込)

保管区分	保管期間	1件あたりの手数料の額
新規住宅履歴保管料 (新築住宅・既存住宅)	30年	33,000円
住宅履歴延長保管料	10年	11,000円
	20年	16,500円

きた住まいるサポートシステムサイト <https://support.kita-smile.jp/>



……………【新築住宅・既存住宅問わず保管可能】……………

きた住まいるサポートシステムによる保管の5つのメリット

- ① 最初の保管期間は30年の長期保管で、さらに延長保管できる
- ② 長期優良住宅の住宅情報記録に対応
- ③ **住宅ラベリングシート**で、住宅性能や特長が一目でわかる
- ④ 保管された情報はいつでも閲覧でき、将来のリフォームや住み替えをする際に活用できる
- ⑤ 第三者機関((一財)北海道建築指導センター)に保管されるから安心

◆北海道建築指導センターは、北海道から、住宅履歴情報の保管機関として指定を受け、お預りします。

住宅ラベリングシートにより、 住宅性能の「見える化」で安心※



我が家の基本性能や特長を、住宅ラベリングシートにより確認できます。



住宅ラベリングシートの一部は、きた住まいるメンバーの実績として Web で閲覧することができます。住宅事業者選びの参考にできます。

自分が建てた家の性能が客観的に見れたり、きた住まいるメンバーがどんな家づくりをしているのかわかるんだね



※2017年以前に住宅履歴情報を保管した住宅の一部は、該当しません。

住宅履歴の保管で、 リフォームや住み替えに活用

きた住まいるサポートシステムにより、設計や施工など家づくりに関する住宅履歴情報が保管されます。保管された情報はいつでも閲覧することができ、将来のリフォームや住み替えをする際に活用することができます。

家づくりの履歴が残るから、リフォームや住み替えの時も便利で安心



断熱リフォームで家の断熱性能を高め

夏は涼しく冬は暖かい家で暮らそう



断熱リフォームをすればこんなにメリットが！



窓からの冷気を感じなくなった



部屋ごとの温度差が小さくなった



カビや結露が発生しにくくなった



暖冷房がよく効き、光熱費が下がった



周りの騒音が気にならなくなった



気密性が上がり、砂やホコリが入らなくなった



おうちの快適性が向上し、家族が健康になり、省エネ・省CO₂で地球の健康にもつながります。

スケジュール	令和6年												令和7年		
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
	令和6年 3月公募 公募期間 3月18日 ～ 6月14日			令和6年 6月公募 (予定)			令和6年 9月公募 (予定)			令和7年 1月公募 (予定)					

※令和7年9月2日から12月12日まで公募期間となっております。

※公募期間に関わらず、補助金予算の上限額まで達することが判明した場合は、それ以降の公募受付を終了することがあります。

公募スケジュールについては、
必ず財団ホームページにて最新の
公募期間をご確認ください。

〈全国対象〉

詳しいお問い合わせは

公益財団法人
北海道環境財団
補助事業部
断熱グループ

〒060-0004

北海道札幌市中央区北4条西4丁目1番地 伊藤ビル7階

メール danref_ask@heco-hojo.jp

電話 011-206-1573【受付時間】平日10時～17時 ※通話料がかかります。

申請要件の詳細は、財団ホームページに掲載している公募要領をご確認ください。

補助金を活用して断熱リフォームを行った方のインタビュー動画もご覧いただけます。

北海道環境財団 断熱リフォーム 検索



居間の窓だけでも対象！

既存住宅の断熱リフォーム 支援補助金について



脱炭素で快適、健康、お得なライフスタイルを

■ 既存住宅の断熱リフォーム支援事業 (二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金)

申請区分	トータル断熱			申請区分	居間だけ断熱		
住宅区分	戸建住宅	集合住宅 (個別) (全体)		戸建住宅	集合住宅 (個別) (全体)		
事業内容	高性能建材などを用いた既存住宅の断熱リフォーム			居間を中心とした高性能建材などを用いた既存住宅の断熱リフォーム			
補助対象となる申請者	個人の所有者または、個人の所有予定者等 賃貸住宅の所有者(個人・法人どちらでも可)		管理組合等の代表者 賃貸住宅の所有者(個人・法人どちらでも可)	個人の所有者または、個人の所有予定者等 賃貸住宅の所有者(個人・法人どちらでも可)		管理組合等の代表者 賃貸住宅の所有者(個人・法人どちらでも可)	
補助対象となる製品	断熱材、窓、ガラス+玄関ドア		断熱材、窓、ガラス+玄関ドア+共用部LED	窓+玄関ドア		窓+玄関ドア+共用部LED	
	蓄電システム 蓄熱設備 熱交換型換気設備等 EV充電設備	熱交換型換気設備等	—	蓄電システム 蓄熱設備 熱交換型換気設備等 EV充電設備	熱交換型換気設備等	—	
補助率	補助対象経費の 1/3 以内			補助対象経費の 1/3 以内			
補助金額 (上限額)	1住戸当たり 120万円 (玄関ドア5万円を含む) + 蓄電システム: 20万円 蓄熱設備: 20万円 熱交換型換気設備等: 5万円 EV充電設備: 5万円	1住戸当たり 15万円 (玄関ドアも改修する場合は、 1住戸あたり 20万円) + 熱交換型換気設備等: 5万円	1住戸当たり 15万円 (玄関ドアも改修する場合は、 1住戸あたり 20万円) ※上記上限額にLED補助額を含む	1住戸当たり 120万円 (玄関ドア5万円を含む) + 蓄電システム: 20万円 蓄熱設備: 20万円 熱交換型換気設備等: 5万円 EV充電設備: 5万円	1住戸当たり 15万円 (玄関ドアも改修する場合は、 1住戸あたり 20万円) + 熱交換型換気設備等: 5万円	1住戸当たり 15万円 (玄関ドアも改修する場合は、 1住戸あたり 20万円) ※上記上限額にLED補助額を含む	

※詳しくはホームページの公募要領をご確認ください。

さあ、はじめよう。

エコ住宅・断熱リフォーム!

室温は、家の窓や壁、床や屋根などさまざまな部分から、外気温の影響を受けています。部分ごとの熱の出入りを知り、効果的なところから断熱リフォームをはじめてみましょう!

天井断熱

気温50℃以上になることもある天井裏を断熱

夏の天井裏の気温は50℃以上に達することがあります。天井裏に断熱材を敷き詰めることで、冬は室内から熱が逃げていくのを防ぎ、夏は天井からの日照りを抑え、暖冷房効果を高めます。

床断熱

足元の冷えを解消する床下暖熱

冬の冷たさは足元から感じるものです。床下にマット・ボードなどの断熱材や気流止めを施工することで、冷気の侵入や底冷えを防止します。

屋根 5% 11%

外壁 7% 15%

開口部 73% 58%

床 7% 3%

換気 6% 15%

→ 冷房使用時、外から熱が入る割合の例
← 暖房使用時、外に熱が逃げる割合の例

窓断熱

効果が高い! 窓の断熱

断熱リフォームを検討するなら、まずは効果の高い窓から。内窓の設置やガラス交換などは室内側の結露防止、防音などにも効果があります。また製品によっては防犯性も向上します。

\\ 単板の窓が寒い! 結露が気になる! / そんな時の対応策

対応策 1

カバー工法+
複層ガラス

対応策 2

内窓の取り付け
(二重窓)

外壁断熱

暖冷房効果を高める外壁断熱

外壁に断熱材を施工して冬は熱の流出を、夏は室内への熱の侵入を防ぎます。これによって暖冷房効果が高まり省エネに。

※居間だけ断熱等の部分的な断熱工事は、改修箇所によって断熱した暖房室と非断熱した非暖房室との温度差が大きく、ヒートショックや結露が発生する可能性があるので注意してください。

令和7年度 建築・住宅セミナー

会場とオンライン（Zoom）の併用開催

<日時> 令和8年2月26日（木） 14:30～16:30（会場受付 14:15～）

<会場> TKP 札幌ビジネスセンター赤れんが前 カンファレンスルーム5A
札幌市中央区北4条西6丁目1 毎日札幌会館5階

<対象者> 建築技術者・行政職員・道民の方々（*会場参加は先着100名）

参加
無料

北海道における木造化の推進と新たな建築空間の可能性

～ 環境負荷の低減に貢献!! ～

木材は再生可能な資源であり、SDGsの達成や脱炭素社会の実現にも貢献するものです。この木材利用を進める観点から、近年、木造建築物の普及・促進に向けた取り組みがなされています。

北海道において木造化を進める上で、技術・コストの面で無理なく取り組める建築物の範囲を示すことが重要です。高島氏の講演では、北海道で実現・普及しやすい木造建築物を、事例分析を通じて検討した研究について報告していただきます。

一方、木造化の推進は、今までにない新しい建築空間を創出する可能性が大きく広がります。山脇氏の講演では、さまざまな建築構造の設計監理の実績をもとに、木造軸組の構造デザイン、木造在来軸組構法による空間表現、構造デザインの楽しさを表現した木造架構など数々の建築物を設計・構造の観点からご紹介いただきます。

●講師

北海道で木造化しやすい建築物とは？非住宅木造建築物の事例分析から

道総研建築研究本部北方建築総合研究所 研究職員 高島将人氏

構造デザインによる愛される木造空間の創造 ～ 多様な木造架構の可能性と実現 ～

株式会社 山脇克彦建築構造設計 代表取締役 山脇克彦氏

●申込・参加方法 ●申込期限 令和8年2月13日（金）

①会場参加 <先着100名> 申込フォーム又はFAX（本チラシの申込書）にてお申し込みください。
受講証はありませんので、当日は、直接会場へお越しください。

②オンライン参加 <先着100名> 申込フォームからお申し込みください。
開催日の3日前を目途に参加ID、PW並びに資料を申込代表者のメールにご案内しますので当日は、各自ご視聴願います。

申込フォーム
(こちらをクリック)



●お問合せ先

(一財)北海道建築指導センター 丹崎

〒060-0003 札幌市中央区北3条西3丁目1 札幌北三条ビル8階

☎011-241-1893

●申込書 【FAX番号：011-232-2870】

会社名	氏名(複数名記載可)	参加方法(○印を記入ください)		連絡先(複数名申込の場合は代表者)
		会場	オンライン	
				TEL :
				FAX :
				MAIL :